第175号 1909. 7. 31.

明治四十二年七月廿一日 第百七十五號（一）

（日曜）日曜及祭日の翌日休刊 明治四十二年七月廿一日 （月刊）

明治四十一年十二月廿三日補三種郵便物認可

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

綠蔭漫語 △△生

▲中原の鹿を獲んとして獲る能はず、勦敵中島祐八氏をして戰槌の擧を博せしめ鮒刀に杖つきて空しく敗軍の不名譽を嘆じつゝある鶴原定吉氏の胸中や果して奈何、總務長官就任以來碌々として何等爲すなく辛うじて青淵翁の挽推に依りて東肥會社社長の任に就かんとしつゝある昨今俄然として政治的圈中の人となり比較的不うつりなる政治的色彩を强て求めんとする氏の感念や果して奈何、要するに氏は時流に擯んじ輿論に先ち癇癪吃驚然として一世を動かす底の豪快男子に非ず、さればとて權謀縱橫術數百出一奇一正機に觸れて策を施し變に應じて計を樹つる底の策略家に非ず陳腐敏巧悄鯉々然として處世の方策に努め、齷々乎として榮達の慾望を期せんとする中に多少の氣骨を帶び幾分の覇氣を有する幾則的人物に過ぎざるなり東肥會社々長は比較的氏に恰當するの地位議員競爭の落選は却つて氏に取つて幸福といふべきか

▲曾爾統監病漸く輕しと國事多端の折柄先づ以て大慶至極なり炎熱天を燒き烈暑地を熔かす折柄幸に病后の攝養に努めよ若し夫れ新協約の功蹟につき伊藤公に嫌焉たらず悔恨の情悶々たるものある如きに至つては却つて病勢を昂めん而已要するに敵は本能寺にあり焉幸に自玉加餐せよ

俳句

日曜吟 龍山すみれ會

▲第三回例會 芳春亭 評

秀逸

行幸を拜した野路や風かほる 秋花

青すだれ捲くや薄すら畫の月 取太郎

碁の暮や月遣ひのほる青簾 四樂

獨り居のひざ改めて新茶かな 淡水

放す手に暗を殘して飛ぶ螢 同

追はれ來て無暗に高く飛ぶ螢 秋花

拂はれてちよと飛迷ふ螢かな 同

再々考

螢賣り月にかくれて歩きけり 淡水

黃昏るゝ遠江を捲くや青簾 天心

舟子呼ぶ江の宵暗や飛ほたる 取太郎

ハガキ文集

中山大納言

桃川燕玉演

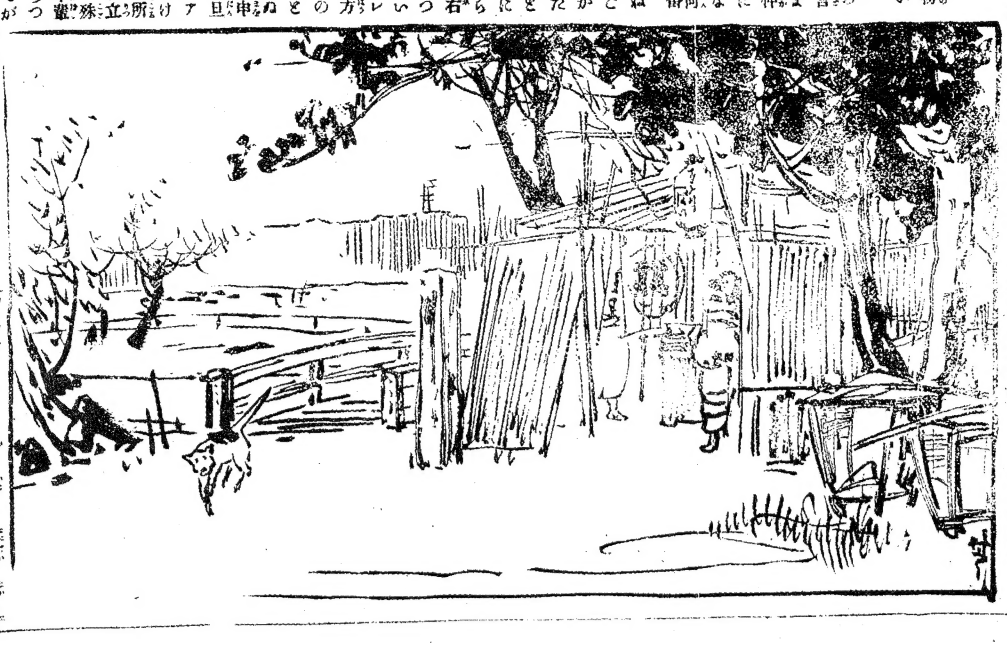
第十二席

●妹に代つて 青楓

妹への寫眞ありがたく候。

妹「大悪悦のはく〳〵顏で、來る人ごとに寫眞取り出しては、コレが會長さんなのよ、粹な方でせう、コレは久保田さんよ、素顏よりかも、此の方が余程、美人に見ゑるんですよ、それからこの方ね吉野さんと被仰つて未だね着いんですよ、寫眞顏よりかも、素顏が奇麗ですわ」などゝ、說明して、ホヽヽと許りに得意な笑を漏して銷夏伴侶と致し居候。

尤も此内藏頭といふ御方は、ちよつと聞く處に馬鹿げて居るが、なか〳〵御器量御宏大なる人物にて、勿論大名方があまり儉約をなさると、下々の者は實際困る、有る人がどん〳〵使ふから世の中は巡りが好くなる、工面の好い人が手を締めてちつとも使はなかつた日には融通が止つてしまふ、此御前樣といふ御方は誠にいかぬもの、此御前樣の御隱居雪齋は生涯面白く御暮しになつた、至て御仲の好かつたのが雲州松江の松平出羽守樣の御隱居不昧樣、筑後久留米の有馬の御隱居雪齋樣、平素非常に御仲が好い、されば此御三方が或年雪見に御遠乘に御出立でございます、馬で乘切つて出なすつた、御家來方は驚くまい事でない、どん〳〵雪の降つてる中を、殿樣が馬の鼻づらを並べてどん〳〵乘立てる、上野の袴腰にて出になつた時に、只今は大分あの邊に料理店が門並でございますが、其昔は澤山には飲食店がございません、酒屋と申す極安直な飲食店が一軒あつた、内田と申して、其の門口へ御掛りなさると雪の降つてる寒い所にブーンと表へ香つたのが惹と鮪を煮ました香ひ、大分ぞうも甘さうな香が致したから、御三方が馬を止め内「どうだ松江、大分好い香りが致す、一盞傾けやうか 不「宜からう〳〵」と、ヒラリと馬から下りなすつて内田へ入らうと云ふ、御近臣の中村仲右衛門といふ人が先きへ大小の中柄抱へ飛び込んで來て 仲「コレ〳〵番頭 番「入らつしやいまし」見ると立派な士、草鞋がけで入つて來た 仲「エヽ淸らかな御座敷があれば結構にいたせ 番「私共は此通り御覽なすつた丈の座敷、外には何にもございませんから、別に汚いにも奇麗にもいたしません 仲「ア、困つたな」見ると突當りに太神宮樣の棚があつて、其下の處に疊が三四枚敷いてある、あとは皆切落しの土間で、醬油樽が幾つも並んで、それへ腰を掛けまして飲んだり食つたりしやうと云ふ 仲「イヤあの突當りへ御案内をしろ 番「ヘイ」いたへれ通んなすつて 番頭め聲を掛けた、ねたと云ふのは突當りへ出なさいと斯う云ふ。御三方はズツと正面の太神宮の棚の下の處へ陣取つた、仲右衛門が仲「コレ〳〵番頭 番「ヘイ 仲「其方宅に佳肴珍肴の類があるか」番頭怪訝な面をして「何と仰しやいます 仲「魚鮮佳肴珍肴の類があるかヨ 番「何だか私にはちつとも分りませぬ、分りの宜いやうにどうか旦那仰しやつて下さい 仲「分らぬ奴ではないか、何か珍肴は無いかと云ふのだ 番「私共ではいさゝか存じませぬナ 仲「默れ、學問を致したつて貴方は左樣でございますナ、さい鍋に蛤鍋鮟鱇鍋、それと外には來のれ浸し、芋の煮付、人蔘と蒟蒻の白あひ、照焼、湯豆腐、そんな物でございますナ」居酒屋の番頭早言で申します 仲「何と申す 番「分らぬいちやどころの、そんな物は取れなくて、右衛門に鍋に惹鮪、それ煮付鮟鱇、煮たの、人蔘と蒟蒻の白あひ、照焼、湯豆腐、そんな物でございますナ」居酒屋の番頭早言で申します 仲「何と申す 番「分らぬ 仲「何と云ふ持ち樣を致す、其方の口氣が皆鍋へ入るではないか、目八分に持つて參れ 番「目八分と申しますと……仲「目から八分上へ上げて持つて參れ 番「冗談仰しやつちやア可ませぬ、躓いて頭へ引被つて御覽じろ、頭アから藥鑵になつちまふ 仲「輔ばぬやうに心付け持つて來い 番「厄介な客が舞込んで來た……へイ」五德なりに居る。所へ其の番頭が、下駄の鼻緒が緩んで居りまする、拇指の先へまゝしを捲いて此奴を引ずりながら、葱鮪の鍋を持つてやつて參りますのを仲右衛門が 仲「コレコレ何と云ふ持ち樣を致す、其方の口氣が皆鍋へ入るではないか、目八分に持つて參れ 番「目八分と申しますと……仲「目から八分上へ上げて持つて參れ 番「冗談仰しやつちやア可ませぬ、躓いて頭へ引被つて御覽じろ、頭アから藥鑵になつちまふ 仲「輔ばぬやうに心付け持つて來い 番「厄介な客が舞込んで來た……へイ」五德なりに



御着坐をなすつて御三方が、鍋盞を中へ置いて是から一杯召上る。

廣告

龍 最上醬油

京城本町二丁目百卅銀行横
齒科專門醫院
齒科醫勳六等 野田應治
（電話一〇四七番）

夏季飲料 ブランデー・ブドー酒・ウイスキー・シャンパン・キリンビール・金線印サイダー・シガレット

卸小賣 京城本町二丁目 直輸入商 辻屋 本店電話一一四八番 支店電話二六六番

店舗改築ニ付 破格大賣出し

各位益々御清祥奉慶賀候弊店儀兼テ特別ノ御引立ニ預リ御蔭ヲ以テ日ニ隆盛ニ赴キ從來ノ店舗ニテハ狹隘ニシテ御滿足ヲ計リ兼候ニ付今回業務擴張ノ爲メ一時休業ノ上店舗改築可仕候就テハ左記ノ通リ各位ノ御厚志ニ酬ユル爲メ特別大勉强破格大賣出し仕候間何卒御來遊多少共御買上ゲノ程奉願上候

自七月廿六日 至八月四日

正札より二割引

其他見切反物並によせ切に限り割引なし

京城本町四丁目

君ケ代 足袋 發賣元

山口吳服店 電話九番

半衿帶上帶締其他紐類各種新荷着夏物大安賣　ゑり德商店

東京新報　第百七十五號（土曜日）　東城新報　明治四十二年七月廿一日（月曜及祭日の翌日休刊）（二）

韓國に於ける外資

翻して韓國に於ける外資と稱するも、清英米佛獨其他の外國人の韓國に注入したるものにして無論日本を除きたるもの也、日本の注入したる資本は余輩の見を以てすれば外資と稱するの適當ならざるを以て也、最近我同業ソールプレスの公にせし處に依れば此等外國人の注入したる資本の合計は四百五十二萬九千八百三十七圓也と云ふ、惟ふに此數字は幾分少額に計出せられ居るべく、余輩が外國人に就て確めたる所に依れば其放資額は七百萬圓を超過せざるべしとの事也、尤も興業銀行を通じて輸入したる多額の外資は無論之に算入せざる也、茲に掲出する韓國の外資なるものは個人的事業の經營に直接放下したるものなりとす。

抑も現世紀に於て列國が其國勢を他に向て發揮するの標準は其國民が他の邦國に對し放下したる資本の多寡を以てするが如し、翼に現世紀に於ては資本は大なる勢力也、此勢力たる資本を他邦に注入することの大なる丈け其勢力の扶殖も亦大なるは乃ち當然の事なりとす、而して韓半島に於ける外資は總て七百万圓に過ぎず、何れより見るも僅か七百万圓の資本は大なるものと見る能はず、然るに伊藤前統監の方針として韓半島の門戸を開放し且つ之を實行したり、而も外國人の利益に對しては特に保護する所あり、しを以て、外國人は鑛山業其他の經營に就て極て便利を得つゝあり、期く寛宏なる門戸開放の下に列國人の注入せる資本は僅に七百萬圓に過ぎず、是れ抑も韓國の產業が外資を誘引する丈けの價値なき爲か或は外國人に特種の事情ありて放資せざるが爲なるか、試に清國に於ける外資の狀況を見よ、列國互に競爭して資本の注入に腐心す、然るに借手たる清國は悠々として其利なるものを攫まんとするに非ずや、余輩は彼我の狀態に於て頗る懸隔あるを慨せんばあらず、然れども韓半島も亦產業政策の宜しきを得ば將來決して望なしとは云ふ可らざる也。

現在の外資は僅々七百萬圓に過ぎざるも、是れ過去に於て半島產業の開發に資する所ありしは決して少と云ふ可らず、而て今後外資を誘引せんとすれば外國人をして眞に安心して資本を放下せしむる爲に產業制度を完備せざる可らず、惟ふに我保護政治の進展に伴ひ漸次地方政治の改善せらるゝ共に產業の發展を見るに至るべし、殊に會社統監は產業政策を專にするとの事なれば漸次產業物興し來ると共に外國人も自然安心して放資するに至らん、余輩は當局者が常に此心懸けを以て施設せられんことを希望するもの也。

東京電報

▲韓銀創立委員

韓國銀行創立委員は總數三十餘名にして內韓人は二名官吏以外は東京、大坂、京都、名古屋横濱、神戸の主なる實業家より撰任する等委員長は多分澁澤男なるべし

▲韓銀と民團貸付

韓國銀行條令中公共團体に對する擔保貸付とあるは居留民團に對する融通を意味するものなりと

▲牙山戰紀念會

二十九日夜星ヶ岡茶寮に於て第十五回牙山戰紀念會を開きたるに福島參謀次長以下出席し盛會なりし

▲久邇宮と米視典

來る九月執行さるゝ米國ホドソンの視典には目下御滯英中の久邇宮殿下を差遣さるゝことゝなる東宮の北陸行啓　我皇太子殿下の北陸地方行は九月十日頃出發のことに決定したり

▲總裁の遞相訪問

中村滿鐵總裁は三十一日岩手縣水澤に滯在中の後藤遞相を訪問し吉長線問題に關し打合せを爲すべしと

▲村田少將昇任

村田統監附武官は中將に昇任し築城本部長に轉任する事に決定し近日發表さるべし

▲兩少將の轉任

少將石井早太氏統監附武官となり少將柳原正三氏は韓國憲兵隊長に任ぜらるゝ事に決定し近日發表の由（廿上三十日午後發）

雜報

●軍部廢止發表

▲軍部廢止決議　李總理大臣以下朴內部、李軍部、高法部、閔宮相各大臣は廿九日午前十一時昌德宮內の內閣に會合し廿一日を以て軍部を廢止する事を議決し之に關する詔勅の打合を了し午後一時散會したり

▲軍部廢止詔勅　韓皇は廿一日を以て軍部廢止の件に關し詔勅を發せらるべし

▲親衛府長官　李軍部大臣は廿一日軍部廢止と共に親衛府長官兼侍從武官長に任命さるゝ事に決定したり

▲親衛府官制　軍部は廿一日を以て之を廢止するに就き同日親衛府官制を發布する由其內容は金文六ケ條にて宮內府所管也

▲軍部廢止と將校　軍部廢止の結果將校四十余名豫備に編入さるゝ由

▲恩給規程發布　別項豫備に編入さる將校に對しては恩給を下賜する筈にて新恩給規程なるもの發表さるべし

▲軍部重要會議　軍部にては三十日軍部次官、軍務局長、經理局長等の幹部員集會し廢止準備に關する重要會議を開けり（日本電報通信所發）

東京電報

▲韓銀の組織

韓國銀行の組織は其筋にはその効力發生期日につき何等規定するところなきにより正式の手續として其實施期日につき更に兩國間に協定なきやるべからざるも日韓の關係は斯の他人行後なすの要なきを以つて日本側の準備成り次第實施期日を韓國に通牒し韓國側にては右通牒に基き勅令を以て裁判所及び監獄署を廢止する筈なりと

●韓銀總裁決定？

韓國銀行總裁は既に付屬統監と澁澤男との間に交渉ありて全行員凡て韓國銀行に採用すると同時に市原總支配人をも韓銀總裁に任用する事に決定したりと日通は報せり

●徵稅締功と成蹟

韓國政府に於ける昨年度の徵稅事務は本年五月を以て全く之れを締切りたるが今其實蹟を聞くに各稅實收總額千六十九万八千百九十圓にして豫算額に比し十七萬九千七百四十六圓の增收なる由

●大臣定例會議開會

去二十九日午前十時より李總理以下各大臣（李學相、任度相は病氣の故を以て缺席）登閣定例閣議を開きたり

●參與官と協約實施

卅日午前十時より統監府にて參與官會議を開き新協約實施に關する準備につき協議する所ありたりと

●謝恩使の派遣延期

伊藤太子大師歸朝後直ちに謝恩使を派遣する筈なりしも韓太子東北巡遊の爲め延期せり

●統監病氣益良好

曾禰統監の病狀は經過益々良好にて兩三日前より來客に面接するを得るに至りたる由なるが朝夕邸內を散歩し居れりと云ふ

●兒玉伯と監理官

荒井度支部次官及び兒玉統監府書記官は韓國銀行創立準備の爲め上京さる筈なるが兒玉伯は監理官に任命さるべしと

●暴徒討伐の計畫

全羅南道管內附近には多數の暴徒集團し人心惶々たるものあるより當局者は近日中之れが討伐を行ふ筈なりといふ

●六月中葉錢の回收

六月中同收の葉錢は十萬九千九百九十六圓にして引上着手後累年の回收額は三百四十四萬四千五百四十八圓なり尚は市場流通の殘額は約一百萬圓强の見積なりといふ

●各道の教監會議

目下各道に於て管內普通學校教監會議を開催し居れるが會議の要項は從來の經過報告及將來の進設方針、各學校の訓練、教授監理等の打合せなり

●私立學校と認可件數

韓國各道を通じ私立學校數は約千五百餘私立學校令に依る認可件數は殆んど千にして目下尚出願の者三百餘ありと

●新協約實施手續

韓國銀行創立委員はその効力發生期日につき何人等の裁判管の裁判を受くる權利を奪はるゝことなしとありて人に關する規定あるも憲法に及ぼすべき効力に關する條文なき爲め曾禰統監は本年上半期に於ける輸出總額は七百一千六万五千七百〇五圓にして昨年同期間の六百六十九萬五千七百三十六圓に比して四十七萬〇〇四十九圓の增加を示せり其の主なる原因は昨年の人蔘輸出は僅に六百六十六圓なりしが本年は六十五萬三千四百九十四圓の輸出ありしに依ると

●司法權委任非訟事件

司法權委任協約成立に就きては司法事務以外の非訟事件即ち登記、屆出の如きは如何取扱さるべきやは議論の岐るゝ所なるが或者は今回の協約は司法權を委任せしのみにて斯る事務迄を委任せしものに非ずと稱ふれども元來非訟事件を裁判所にて取扱はしひは司法機關運用の圓滑を期する爲めに各國皆此制を採用せざるなきを以て韓國當局者に在りても之が考案中なりといふ

●曾禰檢査の執行

曾禰檢査の執行は目下着々進行中なるが既に執行濟の地方は京城は勿論平壤、海州、鎭南浦、仁川及び義州等の諸宮街なるが南部方面は來月始めより執行の筈にて菅田書記官出張すべし

●中央銀行と農銀

韓國銀行と農業銀行との關係に就き農工銀行と韓國銀行との關係に就て當局者の語るところを聞くに農銀は普通の商業銀行とは固より其性質を異にし手形の再割引を確實なる預り證券に依る動產擔保の再擔保貸付は中銀より融通を爲すに至るべしと云ふ

●來年度豫算編成

度支部にては三十日午後一時より各部の會計課長を招集し來年度豫算の編成に關する打合せを開きたりと

●金融界稍々好況

日本市場に於ける米豆の好況なるにつれ近時の輸出は頓に活氣を呈し輸入も又一月以來多額を占むる有樣なるを以て金融界も稍々好況に赴き各銀行は預金貸出共取扱高一般に增加したるが特に預金は著しく增加し銀行は若確實なる放資の途を發見するに苦慮する有樣なれは從つて金利は未だ引下の發表するに至らざるも弱含の狀を呈せりと

●貯金奬勵と方針

過般開催したる觀察使會議に於て一般人民の貯金奬勵に就き各觀察使の意見を徵したる處人民は高利の貸付を望むと且つは郵便所等も郡民に一ケ所若しくは二ケ所に過ぎざる有樣なるを以て此際貯金機關の設備要求したる由なるが當局者は其方針に則ると同時に一方人民に說諭して貯金を奬勵する方針なりと云ふ

●清國密漁船の引揚

清國密漁船の密集せる黃海道方面は其后當ふ官廳の嚴重なる取締により追々引揚つゝありしが目下は漁業の期節殆んど經過したるを以て全く其影を見ざるに至りし由なるが清川江河口に在りかる根據地の如き從前は總然たる一市街たりしも其節の說諭に依り全部引揚たりと云ふ

●豫算と賦課徵收

九月一日より實施さるべき地方費の稅目及稅率は觀察使に於て之れを定め而して豫算に編成して內部大臣の認可を受け之れが賦課徵收は財務署の手に於て爲し其徵收金は觀察道に渡して公共事業に支出すべきものなりといふ

●漢城府の事務遲滯

漢城府にて取扱ふ土地家屋證明等に關する事務兎角捗々しからず斯る證明を乞ふものは多少切迫せる事情あるもの多きを常とするに餘りに遲滯せしめらるゝ時は金融を沮害さるゝこと少からずとて頗りに不平を唱ふるものありと

●新義州益々增水

三十日午前一時其筋への來電に依れば三十日朝再び增水市街殆んど浸水したるも製材所其他無事なりと

●軍用道路速成

關係當局間にて鋭意鋭々研究なりしが南部の兵營建設も直ちにその工事に着手せらるべき筈なるに清津港より通ずる道路は僅かに人馬の往來をなすに過ぎずして全然軍用品を初め建築材料一切運搬する能はざるを以て關係の守備に當れる齋藤陸軍大佐より內部土木局に向つて來る九月中旬迄には是非共工事を竣成されたき旨申し來り統監府に於ても軍司令部と協議の結果經費の多少を問はず成るべく短期一日も早く速成することに決し土木局に於ても先きに比田技師出張し調査を終り速成の目途あるを以て南三日前統監府と經費の交渉をなしつゝあれば協議一次第比田技師出張工事に着手する筈なりと

●商務組合の調査

京城商務組合所にて過般同盟罷業となりたる韓美電氣の車掌迎百三名は去二十九日の巨魁金崇三は去二十八日廣州郡の屯地に全南に於ける暴徒

●暴徒巨魁逮捕

●營林廠延納許可

營林廠の木材又は製品賣拂代金二千三百

●木浦の生產物陳列

木浦理事廳にては受くる由なり

●漢城新報の擴張

漢城新報は今般社務

●長崎滿韓視察團

長崎滿韓視察團は來る九月來韓す

東京電報

▲韓銀の組織

韓國銀行の組織は其筋にはその効力發生期日につき何等規定するところなきにより正式の手續として其實施期日につき更に兩國間に協定なきやるべからざるも日韓の關係は斯の他人行後なすの要なきを以つて日本側の準備成り次第實施期日を韓國に通牒し韓國側にては右通牒に基き勅令を以て裁判所及び監獄署を廢止する筈なりと

●韓銀總裁決定？

韓國銀行總裁は既に付屬統監と澁澤男との間に交渉ありて全行員凡て韓國銀行に採用すると同時に市原總支配人をも韓銀總裁に任用する事に決定したりと日通は報せり

●徵稅締功と成蹟

韓國政府に於ける昨年度の徵稅事務は本年五月を以て全く之れを締切りたるが今其實蹟を聞くに各稅實收總額千六十九万八千百九十圓にして豫算額に比し十七萬九千七百四十六圓の增收なる由

●大臣定例會議開會

去二十九日午前十時より李總理以下各大臣（李學相、任度相は病氣の故を以て缺席）登閣定例閣議を開きたり

●參與官と協約實施

卅日午前十時より統監府にて參與官會議を開き新協約實施に關する準備につき協議する所ありたりと

●謝恩使の派遣延期

伊藤太子大師歸朝後直ちに謝恩使を派遣する筈なりしも韓太子東北巡遊の爲め延期せり

●統監病氣益良好

曾禰統監の病狀は經過益々良好にて兩三日前より來客に面接するを得るに至りたる由なるが朝夕邸內を散歩し居れりと云ふ

●兒玉伯と監理官

荒井度支部次官及び兒玉統監府書記官は韓國銀行創立準備の爲め上京さる筈なるが兒玉伯は監理官に任命さるべしと

●暴徒討伐の計畫

全羅南道管內附近には多數の暴徒集團し人心惶々たるものあるより當局者は近日中之れが討伐を行ふ筈なりといふ

●六月中葉錢の回收

六月中同收の葉錢は十萬九千九百九十六圓にして引上着手後累年の回收額は三百四十四萬四千五百四十八圓なり尚は市場流通の殘額は約一百萬圓强の見積なりといふ

●各道の教監會議

目下各道に於て管內普通學校教監會議を開催し居れるが會議の要項は從來の經過報告及將來の進設方針、各學校の訓練、教授監理等の打合せなり

●私立學校と認可件數

韓國各道を通じ私立學校數は約千五百餘私立學校令に依る認可件數は殆んど千にして目下尚出願の者三百餘ありと

●韓國の製紙事業

關泳謙、金嘉鎭氏等が近頃計劃せる製紙會社に就き某專門家の云ふ處に依れば韓國にて製紙業を起せば果して成効し得べきや否や甚だ疑はしきものあり其原料なる楮樹は高尚に過ぐると供給の永續し得るやを疑はざるを得ず又稻藁は假令豐富なるものと見做すも苛性曹達及洗粉等の材料を充分に供給し得らるゝ如しとして一箇月一臺の機械を以て製造したる印刷料紙は三十萬封度なるが此製產品は果して韓國に販賣し盡さるべきか若し又之れを滿洲及び北淸方面に得意先を見出し得るとするも勤力に高價の石炭を要する上に技師技手職工等は悉く日本より傭入るゝにあらざれは到底成功し得ざるを以て其給料手當等に多額の費用を要すべければ收支の計算は到底償はざるべし云々と

●判檢事の任命

任檢事（奏任四等）

法部主事　石橋養夫
同　鹽野良晴
北村直甫
長濱三郎
同　正記
松野孫次郎
室喜一郎

警部

警部兼內部主事　藤村源太郎

任判事（奏任四等）各通

公人　私人

▲北村八州仙（春川警察署長）新任の同氏は二十九日赴任

▲今村輔（江原道警察部長）浦尾へ投宿中

同日解任

▲藤原八十八（同顯澤官補）同上

▲中江喜太郎（步兵二十三聯隊附步兵大尉）浦尾へ投宿中同日平壤へ

▲鈴木次郎（穀寧憲兵分遣所憲兵中尉）同日釜山へ

▲岸井辰雄（東京市辯護士）二十八日入京三日月

近事片々

▲韓國鐵道の所管に就ては祖國內閣にも種々なる議論出せりと聞く左もあらんか

▲結局　後藤男の主張通り南滿鐵道に合併鐵道院監督の下に置く事に粗ぼ決定と聞く

▲是れ　後藤男の提唱に係はる桂首相の最も望む所故に其折合至極圓滿に運ぶべしと

▲右に　滿韓鐵道の實權を握り左に東拓を監督一面統監を左右するに至らば桂侯万歲

▲更に　此三方面に部下の腹心を配置すれば政友會の天下となるも此勢力に柄付けじ

▲太郎　宰相の得意思ふべし今年や南瓜の當り年に非ずして全く以て大頭侯の當り年

▲伊公　頃者東京に於て聞て曰く來年夏は一度韓太子を歸國せしむると約し來れりと

▲親子　の情として太皇帝の太子を見たきは尤も本年夏は東北の見學に出懸るなりと

▲來夏　太子歸國の際は歸途滿洲及北韓を巡遊する積と是敢て太子の見學のみなるか

▲伊公　の韓皇室に於ける信望意外高し統監辭任するも尚韓國の爲に盡さるの意あり

▲韓銀　總裁には美濃部君の說高かりしも近者亦市原君の說あり何れが夫れ適任にや

▲市原　君は韓國の事に經驗深し此點に於て美濃部君に優る所有茲暫く中に判明せん

▲韓銀　創立委員は韓國にあるものにては荒井兒玉の二人は無論任命せらるとは眞乎

▲創立　委員には唯役人のみなるか韓國存留民よりは之を取らざるか甚だ訝しき事也

▲韓國　商賈は其道によりて賢しと韓國に對する智識あるものを加るの必要確にあり

▲露國　にてはウイッテ伯極東政策に就て重要の使命を受けたりとは果して眞なりや

▲ウ伯　極東政策の鍵を握らば多少露國の使命を受けたりとは果して眞なりや

▲西澤　島間題行惱今は反對に淸國側より淸國人の損害十七萬圓を賠償せよと申込ひ

▲獨亞　銀行の仕打に付き米國抗議を淸國に申込む攝政王甚だ憂悶すと左もありなん

▲小林　孝子はいつか知らぬ間に田中老伯と結婚を淸し岩淵の別莊にイチャ付き居る

▲相談の相談▼

（何でも御相談に應じ升）

◎問　私は之れ迄内地で果樹の培養をして居りますが今秋からは京城附近で桃、ブドウ、李果、梨等を培養致し度存じます就ては目下斯業は大發展しつゝある由なるが未だ後五六年先きにて結果する果物も相應の賣行見込がありませしか全体韓人はかゝる高價のものは除り食はないですか亦目下韓國で結果して居る果樹は何々ですか又御面倒ながら目下の市價一々御知らせ被下度奉願ます（漢城エスペイ生）

◎答　當韓國に於て結實せる果樹は自然生の栗を以て第一に推すべく其他に至つては眞に少額にて悉く内地に供給を仰ぎ居候桃も少々は產するもゴリ〳〵のものにして水蜜桃の如きは產出皆無に帰へば有望と申せは申さるべきも在來の果樹園を見棄てゝ迄の價値は無かるべく併し當地は御承知の通り乾燥の土地なれは結實は充分の樣に存じ候折角の御依頼に付き市價等は目下調査致居候（孫）

◎問　私は酌婦をして居ります不仕合せの女ですが此の頃清國人に馴染が出來まして其の人が女房に成つて呉れと云ひ私もモウ此ん な事は嫌だで然う仕樣と思ふのですが併し考へれは支那人の女房になつたら人に笑はれましようとも思ふて考へ中ですが相談します（原女平假名●●）

◎答　れ芽出度う、誰れが笑ふものか、既に酌婦を仕て居るからには清韓日人の共有物であつたのだ、夫れが此度一清國人の女房と定まるのは大功手だ、妾は考へものだが女房なら結構、序に云ふか清國領事館へ正式の手續を爲て呉れると云ふことを條件に附けなくては國に妻子のある人かも知れませぬから不可ないよ（孫）

●酌婦誘拐者捕は

▲太平町八重咲の抱へ女

▲傾城尚ほ一滴の涙あり

仁川新町二丁目鈴川下宿屋へ去る廿六日京城本町一丁目口入屋森脇伊助方雇人岸都字吉（十二）及ひ廣島市生れ中島玉代（十）の兩人夫婦なりと稱して宿泊したるが仁川署刑事は其一般勤不審なるより取調たる所端なくも誘拐犯人なること判明したり今其の顚末を記さんに前記玉代と云は太平町一丁目飲食店八重咲の抱へ酌婦にて樓主が三百五十餘圓を出して抱へ込みたる程の美人なれば梅井弊護士の斡生等の曳く手數多ある中に本町支那領事館通りの質店時四十分頃南部署の川副巡査が旭町一丁目

南某の弟本田と云へるが屬魂惚れ込み僅かの間に千圓も使ひ果したるより兄の南は弟の放蕩に愛想を盡かし仕送りを止めたれば本田は以前と打つて變り明日から食ふにも困ると云ふ有樣になりければ玉代も氣の毒に思ひ自分故かゝる事になりたれば充分の世話をなすべしとて時々小使を送り居たるがかくては何時果てしも盡かぬよりイッソ作らんとて去る廿一日前記森脇方に至り相談をなしける際傍に居たる雇人岸都が忽ち野心を起し甘言を弄して前借を踏み倒し澤山の手取り に致さすべしとて仁川に來りたるを折惡しく刑事の爲めに押へられ岸都は直に起訴されたりと

鞍替して少しにても金を

巡廻中民團役所北側に於て南大門通の道路より早足にて來掛かる怪しの男ありければ呼止め取調べに伴の男に隙を伺つて逃走したれは同巡査は愈々曲者の直ちに追跡して同町別府組人力車駐車場に於て取押へられ南部署に同行し取調べし處此男は遊賢縣神崎郡八日市町字辻村六十四番地平民高田音次郎（廿二）なるものにて懷に短銃三足を匿し居たれば留置の上引續き取調を受け居れり

●賭博官吏の榮轉

▲官紀振肅が聞て呆れる

強記なる讀者は記憶せん去る六月二十五日の夜三時頃南山町二丁目百五十四番戸本間忠三郎方二階八疊の間に於て四名の男と一名の婦人とが車座を作つて賭博の眞最中を巡査に踏み込まれたる事實は越へて廿九日の本紙上に掲載したり、然るに五名の中に度支部司稅局詰事務官にして吉田政治と云へる男ありたり身は立派なる高等官の肩書を持ちながら斯かる犯罪行爲を敢てしたれば例令警察は說諭で濟みたれとて尚も高等官が判任官の警部から說諭を受けて其れで事濟みとなるべき筈なく間もなく彼れは免官となりしや彼れは一昨廿九日の官報を以て奏任四等に昇進し内務監督局事務官に榮轉を命せられたり博奕を打つて警部の說諭で平へ逆入る文けを漸く免れたる男が昇進するとは流石は韓國式官紀振肅も糞もあつた者でなし斯かる輩が地方の役所へ赴任したら其れこそ部下の役人は收賄や博奕を常業とするに至るべし、嗚呼

●附馬の置去り

大和町一丁目三百六十五番戸大工職矢野米三郎（廿二）は昨二十九日午前八時頃より午後四時頃迄櫻井町六十五番戸の三飲食店大田短籠人方に於て同家の酌婦を相手に三圓十錢の飲食を爲したるに懷中無一文の爲め同酌婦及同家の娘某を附馬として同家を立ち出で自宅近所迄至り一寸待てと二人の附馬を殘し置きて其優姿を置しなるに置去られ附馬は口惜しさに不堪此旨南部署に訴へ出づ

懷から靴三足

一昨廿九日午前三時頃南部署の川副巡査が旭町一丁目

俳優評判記（一）

姫廼家　きみ子

京城座は既に百餘日を打續け歌舞伎座又既に拾數日を打ち尚は引續き當分常打ちの心算だそうな、兎に角此暑さを押して藝術の爲め奮闘すると云ふは家氣なれば、そこで自分も一つ奮發して大に評判記を書いて見やう但し評判記と云つて强ち褒め倒すと云ふ譯ではない氣の毒でも構はぬ隨分皮肉つて見る積りである、先づ第一番に歌舞伎座に立て籠る彰義隊●座から初めよう、此座は二三を除く外は京城では初舞臺の者多く隨て馴染は少ないが新進の腕利き打揃ひ目覺しく活動して居るは嬉しい、先づ●座長の愛澤正藝、是れは四年前元の京城座へ故清川龍水と共に來り當時流行初めのオセロ、ハムレット、フランチエスカー杯を演じて非常に人氣を博した好漢である爾來南河谷地、英領香港、瀾洲邊を巡業する事潮く長じ接藝又大に老熟した、此間演じたハムレットの年丸杯は尤も好くたゞ、一体此優は上背が高く其れに變裝が稱つて居たが清川の形を大分異似て居たよ餘り巧みでないのと調子が一本だから役の變化には乏しいか熱誠實に溢るゝばかりで向きく〳〵の役を取りさへすれば現今の新派劇界に立て確に一家を成す事が出來る。

▲歌舞伎座　義彰隊愛澤一座本日第十一回目替り狂言は「五柳軒」全六場にして役割左の如し

君達のことだから一盞三盞のか杯と冷評す可らず養たり燒いたり仕物は格別此の種の物は安物買ひは斷じて致さず講中を作つては京城ホテルから取り寄せて賞玩する敢て通を振り回すことは致さぬが此の家のなら貴紙讀者諸君に推奬して彈ねる、慾を云へは出前の際はコップやサジを忘れぬ事と容器をモ一段御工夫あらんことを願ひ奉ると申し奉る（大和町の住人投）

▲此の種の投書を歓迎す

▲姿は花でも服地でもリボンでも何でも白が好みます、此れに次で白水色、薄紫、ヒヤトキ、銀鼠、鳩羽鼠なども好み總して淡白したのが宜しい其爲でしようか西洋草花は多く嗜好に適しませぬ（友枝子）

▲早起して東雞に婚艶を矜れる紫陽花に對して色彩の變化

▲ハ關稅總長永濱盛三郎及同令夫人ヨリ同令夫人ノ母堂死去ニ際シ贈與ヲ受ケレタル香料ノ答禮ニ代ヘ本願寺内行旅病者收容所ヘ寄贈相成候條此段公告ス

明治四十二年七月三十日

京城居留民團民長　熊谷賴太郎

公告

金一百圓也

行旅病者收容費ヘ

記者募集廣告

中學校卒業以上の學歴を有し文章に達者なる人一名支局員として採用したい希望者は履歴書、自作の文章を添へ郵便にて至急申込まれたし

株式會社

日本電報通信社

京城支局

（旭町二丁目三三番電話一〇七〇番）

天氣豫報

（自三十日午後六時至卅一日午後六時）

南の風晴後曇

●紳士の遊興振

右は紙面の都合に依り本日休載

廣告

廣告

マルイド新新屋

京城永樂町

藤原支店

電壹八九番

舊材

歐米雜貨各種

洋服毛織周衣地各種

Ⓣ 建部商店

明治四十一年一月一日

移轉御披露

日に增し嚴暑之候に御座候處各位益々御清福之段奉大賀候陳者拙庵事是迄壽町三丁目に於て營業仕居候處皆々樣の厚き御引立に依り日增し盛大に趣き候段誠に難有仕合に存じ候就ては是迄の所にては手狹に相成候爲め今回左記の處に移轉致し階上には すゝし く して風景のよろしき家屋增築致し精撰なる原料を以て調製仕り職人出前持に至る迄今回東京より熟練なる者を新に呼びよせ候間是迄よりは曾一曾風味宜敷朝鮮にて東京のそれを召上ること同樣に御座候間一度御ためしの上御入氣之程願上候來る三十一日より八月二日まで三日間移轉祝を兼ね是迄御引立の御禮として定價より一割引を以て差上可申候又中元贈答品として最も宜敷高尚なる切手券をも發賣仕候間多少に不拘電話にて御申付被下候いは如何なる遠き所にても直樣持參可仕候間當日より賑々敷御光來御用命被下度奉希上候敬白

京城旭町三丁目十六番戸

元十全病院跡

東京庵

電話九五五番

演藝

▲歌舞伎座　義彰隊愛澤一座本日第十一回目替り狂言は「五柳軒」全六場にして役割左の如し

女房れ衆（西井）學生吉田（本田）矢場れ花（桂木）勝見國夫（河野）五柳軒學犬山丈五郎（角村）太工三吉（玉川）女房れいも、刀屋新兵衛（中村）學生貴田（大和）大工甚五郎（開宮）勝見少將（松村）深津書生高橋（天草）深津中將（愛澤）矢場女百々江（銀六（小谷）娘竹子（小神）矢場女しげよ（三吉（篠崎）馬丁金太、糸屋惣兵衛（美崎）鳥差傳（川上）

食道樂

▲アイスクリーム

▲●●●

●眼病藥の大王は永樂町二丁目丸一藥房發賣の富川氏製劑の眞珠白龍丹に限る七十二種の眼病全愈せざる者なし試用の分に限り定價の半額に割引仕候

▲無料紹介欄▼

人事部

●中等教育ある廿七の青年報酬多きを不論會社、商店に雇はれたい　氏名在社（三〇二）
●年齢五多年電氣工務（又簿記精通）の經驗有り市内保證人有り相當處に雇はれたし　氏名在社（三〇二）
●被雇度　簿記に精通の中等教育ある二十才の青年會社銀行店舗勤務被雇度給料不問保證人あり　氏名在社（三〇四）
●小僧　用　十四歳以上十七歳以下のもの一名至急入用　委細面談大濱門前寛衣洋服店
●下女入用　十六七歳より廿三四歳迄の數名入用　南大門通　紅葉
●行商人募集　石油行商人二十五歳以下身體强壯志想堅實勞働を厭はず忍耐力ある者本人來談　麻山元町三丁目韓組（三〇七）
●英文代書　通譯應屬　本町一の七五中村

●商品販賣員募集　午前十時前希望者本人來談あれ　本町一、三巴酒店奥武田賀店（四一〇）
●被雇度　年廿九市内に確實保證人有韓語に通ず不問職業被雇たし氏名在社（四一三）
●韓語通譯　會社銀行又は商店を問はず韓語通譯に被雇たし　氏名在社（四一二）

物件部

●電話讓渡　格安又は月賦讓渡の相談に應ず　氏名在社（三〇〇）
蓙織機械廿臺○鐵鈑機械○凝打機械一臺安價に賣却す大和町一の二一九　渡邊方山本
●中古寫眞器一揃一個格安に賣却したし　氏名在社（三〇八）
●地所賣却　第一銀行建築場に接近せる大道目貫の場所に有望なる地所家屋賣物あり　本町一の七五　中村
●醫士開業向貸家あり　本町三丁目　貸化堂藥局（四一一）

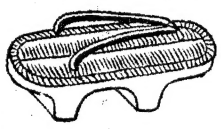
廣告

●簿記學生徒募集
本校教授科目　商業會社銀行官廳鐵道工業農業鐵道家計貿易數學英語日語
●入學年齢十五歳以上四十五年以下
本校卒業生學歴等優等者は商店會社官廳等の各方面に就職上の特典あり
●志願者は至急申込るべし呈校則
京城太平町太平湯の處に在り
漢城高等簿記學校

東京産婆學校卒業
産婆　莊野キヌ
龍山十五間鹽路
鐵道官舍十六號一

卸小賣
京城本町丁目
富士の里茶舗
電話九七九番

解雇廣告
京城支社外交員
飯野淺成
右不都合の廉あり昨日限解雇す
七月廿八日
滑稽新聞京城支社

東京
京
本店東京

正札付
大安賣
厘も引なし
安心して買へ升
京城大和町一丁目日の出橋横
藤井出張店

店舗御望の方は造作附讓たし

移轉に付き
メチヤ〳〵大安賣
廿四日より當分の
内壹足に付定價の
一圓引
御賣は特に御相談可申上候
京城本町六丁目
富田第一支店

新築落成御披露
弊店儀各位の御引立を蒙り日に增し隆盛に趣き從て家屋の狹隘を感じ候に付過般來新築中の處愈々落成仕候間擴張と同時に店務の改良を爲し各種時計其他美術品等最も嶄新なる流行形直輸入し特別廉價を以て御需用に應し候條多少に不拘御用命の程奉願候
各國時計美術品

横面
直輸入商
京城本町三丁目
田中兄弟時計商會
（電話二五七番）

明治廿年七月創立　京城代辨店　本町四山口呉服店電話九番
東京海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓　事務所　京城本町二の三電話一〇六〇番

大賣出し
漬物
味噌
醬油
製造元
京城本町五丁目
大上商店
（電話二五一番）
和洋酒、醸造酒、穀物麵類、銘茶、鑛詰、乾物、荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣　尚御望に依り商品切手調進仕候

夏物見切反物出張販賣
期日七月二十五日より
巴城館に於て
◎商品種目
一島絹羽織地及着尺薄物
一單帶　一單男帶
一本塲結城紬　其他
一伊勢崎名仙
一博多及絹九寸

謹啓陳者暑氣甚しく御座候處各位愈々御清適に被渡奉大賀候却説弊店義先年錦地へ出張の砌りは非常なる御厚配を蒙り難有奉謝候就ては今回目下流行の新柄夏衣各種持參仕候へ共時機遲延の爲め見切品として極々安價を以て販賣仕候間御買上の有無に不拘是非共御一覽の榮を賜り度候追て品物は電話其他にて御注文次第直に持參御高覽に可供候
東京市日本橋區本石町三丁目
開根呉服店出張
（電話本局三九六）

太巻特製品大賣
土耳古金口莨

●賣出期間　明治四十二年七月十五日より同年九月十五日まで
●抽籤日同　年九月二十日
●景品引替期間　九月廿一日より十月卅日まで
●本景品券は百本入壹個に付一葉を呈す
一號太巻インペリヤアル　一圓四十錢
インペリヤアル　一圓
黑巻スポート　一圓十錢
景品目錄
一等　額面金貳百圓勸業債券
二等　金側時計　一個
三等　ブドウ酒（一打入）一枚續白毛布
四等　コーヒー道具　一箱
六等　バスケット　一組
八等　婦人レース　一個
十等　トルキー、サモス、デー、ジェチン會社　一枚
五等　金口莨（百本入）十箱
七等　信玄袋　一個
九等　手提文庫　一個
（以下之籤なし）

特約店
本町六丁目（電話五七一番）　トルコ煙草商會
本町二丁目（電話二四八番）　岡野洋物店
本町三丁目（電話三六六番）　辻屋本支店

夜店御披露
塲所　長谷川町一丁目通り
尚出店御希望の御方は長谷川町繁榮會事務所（電話千日十四番）へ至急御申込被下度候
明治四十二年七月
長谷川町繁榮會

◎氣候變化＝牛乳
◎牛乳＝純良＝消毒
韓國畜産株式會社
南大門外（電話八八番）

▲清潔の下宿▼
客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戸（元花屋跡）横小路
▲懇切の下宿▼
かめ屋

日本郵船株式會社
瀛船仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通電話三九番　郡回漕店
●釜山長崎門司神戸行
山東丸　八月一日午後三時出
●大連、太沽、牛莊行
高砂丸　八月五日正午時出
●大連、大沽、牛莊行
山東丸　八月十七日午前四時出
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸　八月廿六日正午
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行
立神丸　七月
御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎可申候
注意　船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金貳圓▲六ケ月前金貳圓四錢▲歸國後一ケ月内無料
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一四五十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太郎
京城西署西小門通
發行所　京城新報社
電話六六三番

諸官衙御用品調達
營業科目
和洋紙類　印刷附屬品
印刷インキ　和洋書籍
防腐デシン　穀物食鹽
諸染料類
各學校御用品調達

委託販賣
東京ランバーグ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
藤田合名會社
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

本社
京城明治町二丁目
電話二三〇番
出張所
東京京橋區南鞘町一丁目十番地
電話新橋三九六二